

大学生のインテリア計画における 色彩に関する調査研究

高田 宏

(2008年10月2日受理)

A Survey on the Color of Interior Design for University Students

Hiroshi Takata

Abstract: The purpose of this study is to clarify the actual conditions of the color on interior design for university students. At first, the author carried out the questionnaire survey in order to grasp the characteristics of respondents and their consciousness of interior and color design. Based on the results of the questionnaire survey, the relationship between the characteristics of respondents and their consciousness was studied. Especially, the influence of the respondents' academic grade and the size of a room on their level of importance, interest, satisfaction in interior and color design were analyzed. In addition, the author gave consideration to the method of color scheme for comfortable apartment rooms.

Key words: color, interior design, university students, questionnaire survey

キーワード：色彩, インテリア計画, 大学生, アンケート調査

1. はじめに

現在、日本では多くの学生が大学に通っており、彼らの中には、親元を離れて賃貸マンションや賃貸アパートを借りて一人暮らしをしている学生も多い。近年、家具・家電付き賃貸マンションも増えているが、多くの場合は、自分で家具や家電を購入して、何もない室内空間を、居住者が組み立てる必要があり、一人暮らしの部屋は居住者の嗜好や趣味、考え方などが反映されやすいと考えられる。また近年、情報雑誌、ファッション誌の特集、住宅やリフォームをテーマに取り扱うテレビ番組などで身近にインテリアに関する情報を得ることができるため、学生自身もインテリアについての興味が高く、自分の部屋をいかに快適にするか、ということに関心を持っていると考えられる。

インテリア計画の際に考慮するインテリアエレメントの要素として、色彩、素材、配置、量、大きさなどがある。その中でも、色彩が室内の雰囲気や快適性に

及ぼす影響は大きく、インテリアにおいて非常に重要な要素であると考えられる。

既往研究において、学生の快適な一人暮らしのための有用なデータが蓄積されつつある。熊谷¹⁾は、寮生と通学生を対象にアンケート調査を行い、学生が自室において何を必要としているのかを明らかにしている。また、住宅の色彩に関する研究は数多く、竹原²⁾は住宅に住む家族を対象にアンケート調査を行い、居住者の属性およびインテリアに対する意識と居間における装備要因の色彩との関連を明らかにしている。さらに、加藤³⁾は、女子学生15名を対象として、6畳の部屋のカーペット、カーテン、壁紙の色が人間に及ぼす生理的作用と心理状態の比較検討を行う実験を試み、各色が実生活の快適性にどのような心理的影響を及ぼすのかを追求している。鹿戸⁴⁾は、学生層を対象にアンケート調査を行い、居間、浴室、自室の色彩の感じ方、使い方を明らかにしている。

しかしながら、アパート・マンションで一人暮らし

をしている学生の自室のインテリアに対する興味や色彩計画についての研究例は数少なく、学生が自室でどのような色彩計画をすれば快適な住空間が得られるのかについて明らかにされていない。本研究では、一人暮らしをしている大学生を対象として、インテリアに対する興味と色彩計画について、アンケート調査を行い、インテリアにおける色彩計画の実態と居住者の評価を把握し、一人暮らしの部屋の快適なインテリア空間について考察することを目的としている。

2. 調査概要

2.1. 調査対象者および調査方法

広島県内のアパート・マンションで一人暮らしをしている広島大学の学生を対象にアンケート調査を行った。調査票配布部数は295部であり、回収率は69.2% (204部)であった。このうち有効回答数は196部 (96.1%)であった。調査期間は平成19年9月下旬から11月下旬までである。

2.2. 調査内容

アンケート調査票は、対象者の属性に関する項目、自室におけるインテリアに関する項目、自室のインテリアにおける色彩に関する項目で構成した。

対象者の属性について、学生の性別、学年、ルームシェアをしているかどうか、部屋の広さ、一人暮らしの経験年数、現在の部屋での居住年数、対象者の好きな色（上位3色）などを設問した。自室のインテリアについて、インテリアに対する興味、興味のある項目、満足度と具体的な不満要素、工夫の有無と具体的な工夫内容を設問した。自室のインテリアにおける色彩については、好きな色のインテリアへの使用の有無、具体的な使用箇所、色彩計画の満足度と具体的な不満要素、色彩計画の重要度などを設問した。

3. 調査結果

3.1. 対象者の属性

対象者の性別は、有効回答者196人のうち、男性が105人、女性が91人であった。

対象者の学年構成を図1に示す。対象者の学年は、学部1～4年生、大学院1, 2年生の計6学年分を調査対象とした。全体では、各学年である程度のサンプル数は得られたが、男女別に見ると、学部1年生～学部3年生では女性の方が多く、学部4年生、大学院1, 2年生では男性の方が多結果となった。

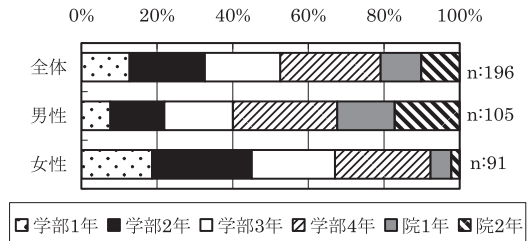


図1 学年構成

3.2. 居住形態と居住年数

対象者の居住形態は、一人暮らしが191人、ルームシェアをしている学生が5人であった。ルームシェアをしている5人については、自分で自由に装飾できる部屋を各自持っており、自室について回答していると判断できたため有効回答として集計している。

対象者の部屋の広さを図2に示す。部屋の広さは、8畳以上9畳未満の広さの部屋に住む人数が最も多い。

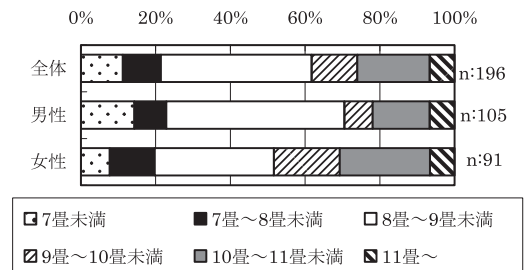


図2 部屋の広さ

対象者の一人暮らしの経験年数を図3に示す。一人暮らしの経験年数は、3年以上4年未満の人数が最も多い。これは対象者に学部4年生が最も多く、彼らの多くが一人暮らしを3年以上4年未満の範囲内で経験していることが影響している。

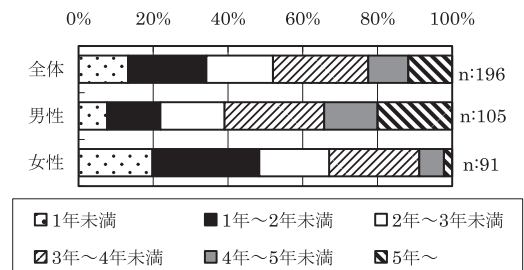


図3 一人暮らしの経験年数

現在の部屋での居住年数を図4に示す。居住年数が1年以上2年未満の人数が最も多く、その人数は全体

で55人であった。一人暮らしの経験年数が比べ現在の部屋での居住年数が短い対象者が多いことから、在学中に何度か引っ越しをしていることが考えられる。

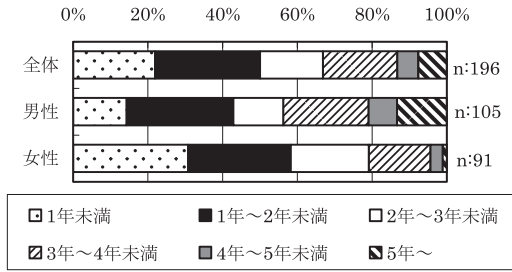


図4 現在の部屋での居住年数

3.3. 対象者の好きな色

対象者の好きな色(上位3色)の内訳を図5に示す。対象者の好きな色は、1位から3位までの合計数で見ると、白と答えた人が最も多く、次いで黒、青、赤、ピンク、緑、茶色の順となっている。1位と回答した人数で見ると、青が最も多く、次いで、黒、白、赤、ピンク、緑の順であった。

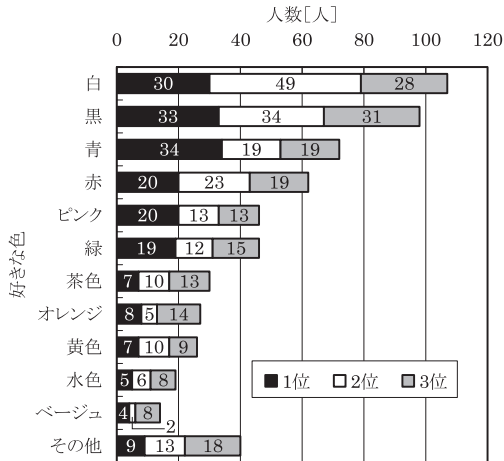


図5 好きな色の順位

3.4. 自室のインテリアに対する興味度

自室のインテリアに対して興味があるかどうかを質問した。その回答結果を図6に示す。「とても興味がある」と答えた人は全体で33.7%, 「少し興味がある」と答えた人は52.6%であり、全体で86.3%の人が自室のインテリアに対して興味を持っている。男女別に比較すると、女性の方が自室のインテリアに対して興味を持っている人が多く、女性のうち94.5%の人がインテリアに対して興味を持っているという結果が得られた。

た。竹原ら²⁾は、奈良の住宅に住む20代以降の一般女性を対象にアンケート調査を行い、居住者のインテリアに対する関心度を明らかにしている。それによると、インテリアに対して関心がある人は88.6%であり、これらの結果より、多くの女性がインテリアに対して興味を持っているということがうかがえる。

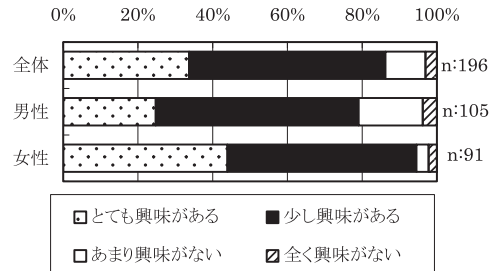


図6 自室のインテリアに対する興味度

3.5. 自室のインテリアに対する満足度

自室のインテリアに対して満足しているかどうかを質問した。図7に回答結果を示す。自室のインテリアに満足している人は全体で37.8%であり、その他の約6割の学生が自室のインテリアに対して満足していないという結果が得られた。男女別に見ると、女性の方が自室のインテリアに対して満足していない人が多かった。自室のインテリアに対して満足していない人の不満項目としては、家具、収納、部屋の雰囲気、色彩、建築的要因、金銭的要因などが挙げられた。全体として、家具に対する不満が最も多かった。

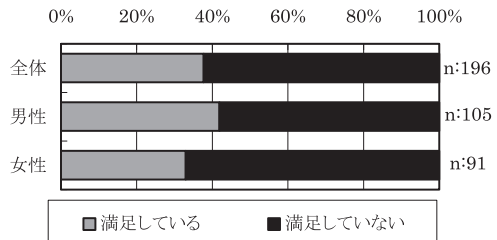


図7 自室のインテリアに対する満足度

3.6. 自室のインテリアに対する工夫

自室のインテリアに対して何か工夫をしているかどうかを質問した。その回答結果を図8に示す。全体として59.7%の人が何か工夫をしているという結果が得られた。男女別に見ると、女性の方が自室のインテリアに対して工夫をしている人が多いという結果が得られた。具体的な工夫の内容として、家具、装飾品、色彩、ファブリック類、照明などが挙げられ、家具に対して工夫をしている人が最も多かった。

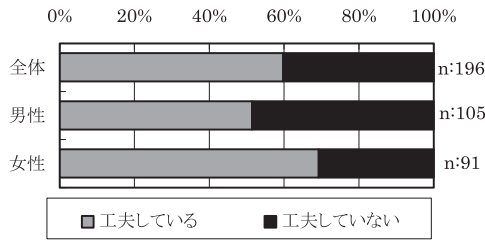


図8 自室のインテリアに対する工夫の有無

3.7. 自室のインテリアにおける好きな色の使用

3.3で示した対象者の好きな色を自室のインテリアに使用しているかどうかを質問した。その回答結果を図9に示す。全体で75.0%の人が好きな色をインテリアに使用していると回答している。男女別に見ると、女性の方が好きな色をインテリアに使用している人が多い。

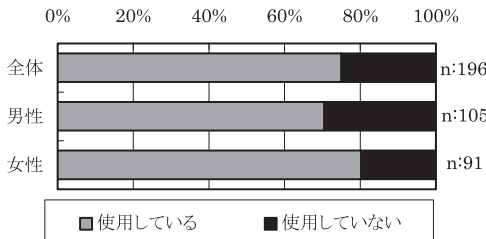


図9 インテリアにおける好きな色の使用

3.8. 色彩計画における配色

自室のインテリアにおいて色彩計画を行う際に配色について考えているかどうかを質問した。図10にその回答結果を示す。全体として59.2%の人が配色について考えているという回答が得られた。男女別に見ると、女性の方が配色について考えている人が多い。

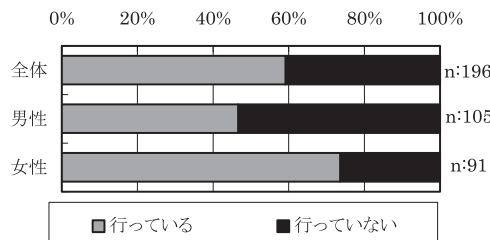


図10 色彩計画における配色

配色について考えていると回答した人を対象に、実際にどのような配色をしているのかを自由記述で回答を求めた結果、白をインテリアに取り入れたという回答者では、白をベースに他の色を取り入れるという配色パターンが多く見られた。これは、アパートの内装

材として白色系の色が壁紙などに多く使われていることが影響していると考えられる。また、白と黒でモノトーンの配色を行う例も多く見られた。その他、青、赤、ピンクなどはアクセントカラーとして取り入れる例が多く見られ、茶色をインテリアに取り入れたという回答者には、ベースカラーとして取り入れている例が多く見られた。また、部屋を温かく落ち着いた雰囲気にするために茶色を取り入れている例も見られた。

3.9. 色彩計画に対する満足度

自室のインテリアにおける色彩計画に満足しているかどうかを質問した。図11にその回答結果を示す。全体で65.8%の人が色彩計画に満足しているという回答が得られた。男女別に見ると、男性の方が自室のインテリアにおける色彩計画に満足している人が多い。色彩計画に満足していない人を対象に、何が不満なのかを自由記述で質問したところ、全体として「統一感がないから」という回答が最も多い結果となった。

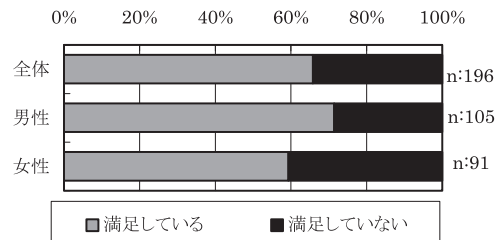


図11 色彩計画に対する満足度

3.10. 色彩の重要度

インテリアを計画する際に色彩は重要かどうかを質問した。図12にその回答結果を示す。全体で90.8%の人が色彩は重要であると考えており、特に女性の方が色彩は重要だと考えている人が多い結果となった。

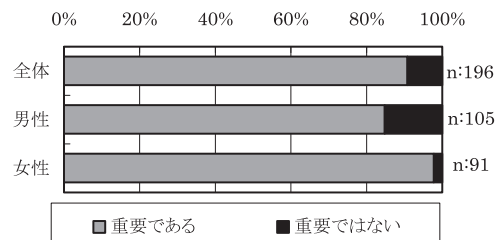


図12 インテリアにおける色彩の重要度

インテリアにおける色彩は重要であると答えた人を対象に、なぜ色彩が重要と考えるのかを自由記述で回答を求めたところ、「落ち着く・リラックスできるから」という回答が最も多く、学生は自室でくつろぐためには、色彩が大いに関係すると考えていることが推

察できる。

3.11. 色彩計画に関する要望

自室の色彩をどのようにしたいかという要望を自由記述で回答してもらった結果、具体的な色彩の要望で、白を使用したものが最も多く、その他には全体的に落ち着いた色を取り入れたものが多かった。配色の要望では、「統一感を持たせる」という回答が最も多く、印象の要望では、「落ち着く」という回答が多かった。

4. インテリアに関する考察

4.1. 自室のインテリアに対する興味度の考察

3.4より、多くの学生が自室のインテリアに対して興味を持っていることが明らかになった。また、竹原ら²⁾によると、インテリアに対して関心がある人の方が、関心がない人に比べて好みの部屋をつくり出せている人が多く、インテリアに関心を持つことは快適なインテリア空間をつくる上で重要であるといえる。ここでは学生の属性別にみた自室のインテリアに対する興味度を考察する。

学年別に自室のインテリアに対する興味度を見た場合、学部と大学院のそれぞれで学年が低い方が興味を持っている学生が多く、学部1年と学部2年では興味を持っている人が90.0%を超えるという結果が得られた。また、学部4年と大学院2年のインテリアに対する興味度は他の学年に比べて低い傾向にあった。

部屋の広さ別に、自室のインテリアに対する興味度を図13に示す。ここで、部屋の広さはサンプル数の関係から、8畳未満、8畳以上9畳未満、9畳以上の3区分としている。

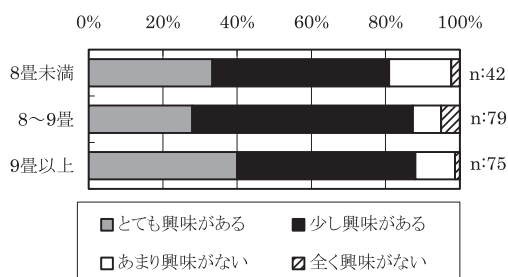


図13 部屋の広さ別に見たインテリアに対する興味度

部屋の広さ別に見たインテリアに対する興味度は、部屋が狭くなるほど、興味度も低くなる傾向が見られる。これは、部屋が狭いと家具などのインテリアエレメントを置けるスペースが少なくなり、インテリア計画の自由度が低いことが要因と考えられる。

4.2. 自室のインテリアに対する満足度の考察

学年別に自室のインテリアに対する満足度を見た場合、大学院1年での満足度が最も高く、47.6%の人がインテリアに対して満足していた。満足度が最も低かったのは学部1年生であった。

部屋の広さ別に見たインテリアに対する満足度を図14に示す。3区分した部屋の広さと満足度に顕著な傾向は見られない。図示していないが、7畳未満の部屋に住む学生 (n:22) で満足している割合は27.3%と低く、11畳以上の部屋に住む学生 (n:13) で満足している割合は53.8%と高いことから、部屋が広いほど配置できるインテリアエレメントの数が多くなり、インテリア計画の自由度が増すので、満足度も高い可能性が示唆されえた。

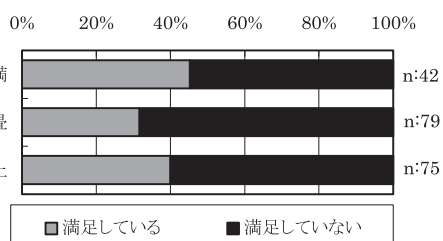


図14 部屋の広さ別に見たインテリアに対する満足度

また、現在の部屋での居住年数別にインテリアに対する満足度を見ると、3年以上同じ部屋で生活している学生では、居住年数が長くなるほど、満足度が高くなる傾向が見られた。

インテリアにおける興味度と満足度の関係を図15に示す。インテリアに興味がある人の方が満足していない割合が高く、インテリアに興味がない人の方が満足しているという結果が得られた。これは、インテリアに興味がある人ほどインテリアに対する自分の理想が高く、現実のインテリアはその理想に届いていないので満足度が低いという結果になったと考えられる。

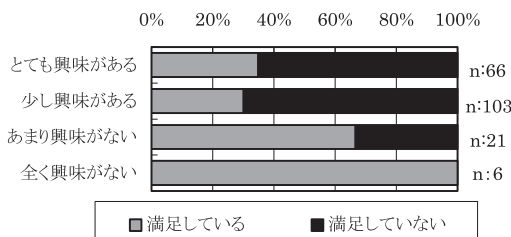


図15 インテリアにおける興味度と満足度

4.3. 自室のインテリアに対する工夫の考察

学年別にインテリアに対する工夫の有無を見ると、工夫をしている人の割合はほとんどの学年で50.0%を超えていたが、学部1年では50.0%を下回っていた。

部屋の広さ別に、インテリアに対する工夫の有無を図16に示す。3区分した部屋の広さと工夫の有無に顕著な傾向は見られない。図示していないが、9畳以上10畳未満の部屋に住む学生（n：24）は工夫をしている人の割合が29.2%と最も低く、部屋が広すぎたり、狭すぎたりすると様々な工夫をする必要があるが、9畳～10畳くらいの広さの部屋であれば、それほど工夫をしなくても快適なインテリア空間が得られやすい可能性が示唆される。

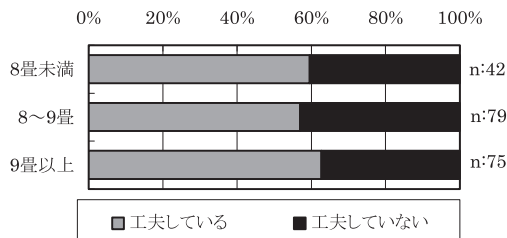


図16 部屋の広さ別に見たインテリアに対する工夫の有無

インテリアにおける興味度と工夫の有無の関係を図17に示す。インテリアに興味を持っている人ほど、自室で何らかの工夫をしている割合が高い傾向が見られる。これは、インテリアに興味がある人は自室に対して何らかの要望があり、それを満たすために工夫をしているためと考えられる。

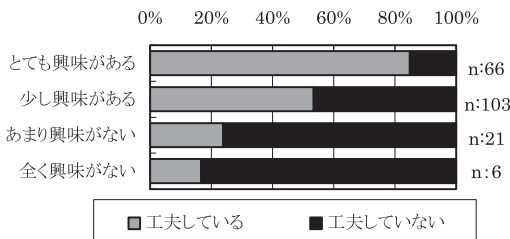


図17 インテリアにおける興味度と工夫の有無

インテリアにおける満足度と工夫の有無の関係を図18に示す。インテリアに満足していない人の方が満足している人よりも工夫をしている人の割合が若干高い。これは、満足していない人はインテリアに対する意識が高く、インテリアに対する理想を叶えるために何らかの工夫をしていると考えられる。一方で、自室のインテリアに工夫をしていても満足できていない人が

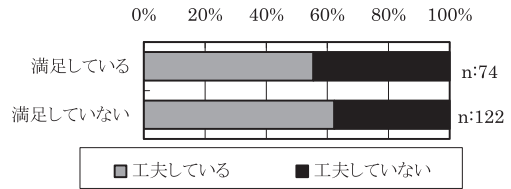


図18 インテリアにおける満足度と工夫の有無

全体の4割近く（n：76）いることがわかる。

5. 色彩に関する考察

5.1. インテリアにおける好きな色の使用の考察

部屋の広さ別に、好きな色のインテリアへの使用の有無を図19に示す。部屋が広いほど好きな色をインテリアに使用している人が多いという傾向が顕著に見られた。これは、部屋が広いほどインテリアエレメントの数を増やすことができ、色彩計画の自由度が高くなることが関係していると考えられる。一方で、狭い部屋では色彩計画の自由度が制限されてしまい、あまり活発には色彩計画を行えないものと考えられる。

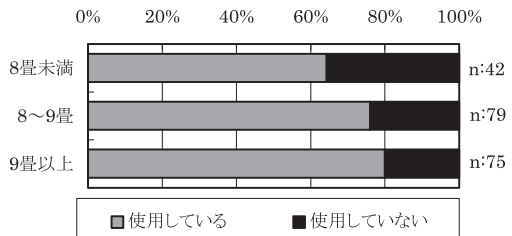


図19 部屋の広さ別に見たインテリアにおける好きな色の使用

5.2. 色彩計画における配色の考察

自室のインテリアにおいて色彩計画を行う際に配色について考えているかどうかを学年別に見た場合、配色を考えて行っている人の割合は学部2年が66.7%で最も高く、学部2年以降は徐々に割合が低くなる傾向が見られた。

部屋の広さと色彩計画における配色との関係を図20に示す。部屋が広くなるほど、配色を行っている人が多くなる傾向が見られる。これは、部屋が広い方がインテリアエレメントの数を増やすことができ、様々な色彩を取り入れることができる。つまり、部屋が広いほど自由な色彩計画が行いやすいため、配色をよく考えて行っていることが推察される。

インテリアにおける興味度と色彩計画における配色との関係を図21に示す。インテリアに興味がある人の

方が、インテリアに興味のない人に比べて配色を行っていることがわかる。インテリアに興味のある人にとって配色行動は重要であり、快適なインテリア空間に色彩計画は欠かせないものであると考えられる。

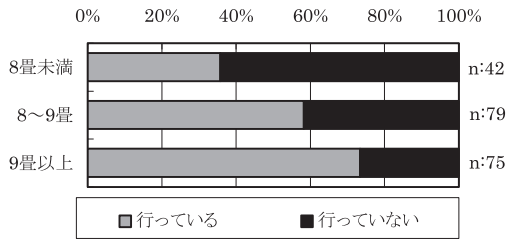


図20 部屋の広さ別に見た色彩計画における配色

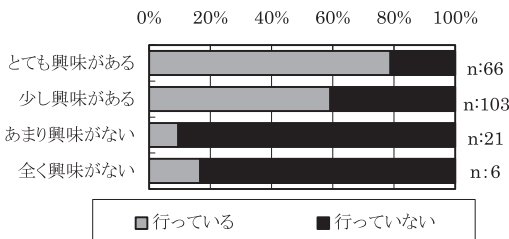


図21 インテリアにおける興味度と色彩計画における配色

5.3. 色彩計画に対する満足度の考察

部屋の広さ別に、色彩計画に対する満足度を図22に示す。3区分した部屋の広さと満足度に顕著な傾向は見られない。図示していないが、7畳未満の部屋に住む学生 (n: 22) で満足している人の割合は最も低い。これは、部屋が狭いことで色彩計画の自由度が低く、自分のしたいように色彩計画ができないことが考えられる。

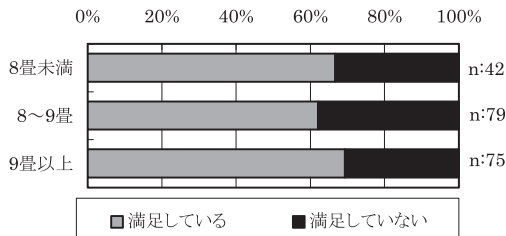


図22 部屋の広さ別に見た色彩計画に対する満足度

インテリアにおける好きな色の使用別に見た色彩計画に対する満足度を図23に示す。インテリアに好きな色を使用している人の方が使用していない人に比べて満足している人の割合が若干高いという結果が得られ

た。これより、色彩計画に好きな色を取り入れることは色彩計画における満足度を上げるために有効な手段である可能性が示唆される。

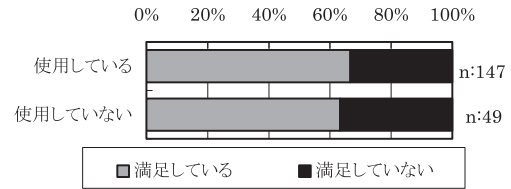


図23 インテリアにおける好きな色の使用別に見た色彩計画に対する満足度

色彩計画における配色行動と色彩計画に対する満足度を図24に示す。配色を考えて色彩計画を行っていない人の方が満足している人の割合が高い。これは、色彩計画において配色を考える人は色彩計画に対する理想が高いものの、その理想を満たすような配色ができていないために満足できていないことが考えられる。

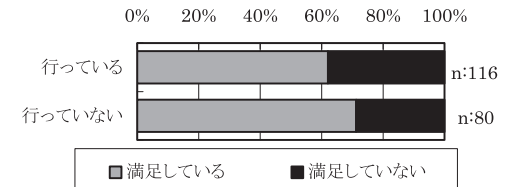


図24 色彩計画における配色と色彩計画に対する満足度

5.4. 配色方法に関する考察

アンケート調査により明らかになった色彩計画に対する不満、重要度、要望を参考に、快適なインテリア空間を得るための具体的な配色方法について考察する。具体的な配色方法として、以下の3通りが挙げられる。

(1) 統一感

多くの学生が色彩計画において統一感を重要と考えていることが明らかになった。アンケート調査によって得られた学生の具体的な配色実例をもとに統一感のある配色方法を考察する。

まず、白や青など一色で統一する例が多く見られ、白色系や暖色系など、同色系でまとめる例も見られた。また、赤と白、白と黒や、緑と黄色など同色系ではない色を組み合わせで色彩をまとめている例も統一感を持たせているとして回答されていた。さらに、ベースカラーを統一した上でアクセントカラーとして別の色を取り入れる例も多く見られた。

以上より、統一感を取り入れた配色方法として、「一

色で部屋の大部分を占める」,「同じ系統の色で大部分を占める」,「同系でない複数の色で大部分を占める」などが考えられる。

(2) 落ち着いた色彩

アンケート調査から多くの学生が色彩計画において「落ち着き」を求めている傾向が見られた。これを満たす配色方法として、色彩計画において落ち着いた色を使用することが考えられる。具体的な配色実例をもとに考察する。

まず、白や茶色などをベースに赤などの暖色系をアクセントに用いる例が見られた。また、白をベースに植物の緑をアクセントして取り入れた例も見られた。さらに、ベースカラーを白と黒のモノトーンにしてアクセントカラーを多く取り入れる例も多く、白と黒のモノトーンの配色は、壁紙など内装材で白色系が多く使われている学生アパート・マンションにおいて非常に行いやすい配色方法であると考えられる。

以上より落ち着いた雰囲気がかつ地味過ぎず派手すぎない配色方法として、「白や茶色などの落ち着いた色をベースに、やや強めの暖色系の色や寒色系の色をアクセントカラーとして使用することで適度な主張を持たせる」というものが考えられる。

(3) 元気な色彩

統一感や落ち着いた色彩の他に、暖色系などカラフルで元気な色彩を求めている人がいることが明らかになった。元気な色彩の配色を満たす手段として、少し派手な配色方法などが考えられる。具体的な配色実例をもとにカラフルで元気な色彩について考察する。

まず、赤やピンクなどの暖色系を中心にして配色している例が多く見られた。暖色系の色は心理的に気分を高揚させる効果があるので、元気な雰囲気を出す際に暖色系の色を多く取り入れることは効果的であると思われる。また、青と黄色を対比させるなど補色同士を派手に取り入れた例も見られた。さらに、オレンジ、黄緑、黄色など多数の色を使用してカラフルな色彩計画を行っている例も見られた。

以上より元気な色彩の配色方法として、「暖色系を多く取り入れる」,「派手な色使いをしてカラフルな印象を持たせる」といった方法が考えられる。

6. おわりに

本研究では、一人暮らしをしている広島大学の学生を対象に、自室のインテリア・色彩計画に関するアンケート調査を実施し、大学生のインテリア計画における興味度、満足度、工夫の有無を把握した。また、イ

ンテリア計画における色彩の満足度、重要度、配色行動などを明らかにし、アパート・マンションで一人暮らしをしている学生の部屋の色彩計画による快適なインテリア空間に関する考察を行った。

本研究の調査結果はアンケート調査によるものであり、色彩に対する捉え方は個人の嗜好や趣味による差異が大きいことが、集計・分析を進める過程の中で改めて感じられた。対象者の部屋の実際の色彩がどのようなものかは対象者の判断によって異なると思われるため、実測調査などにより物理量を測定するなど、定量的な基準のもとで詳しく考察することも望まれる。また、インテリア空間の快適さは家具のデザインや配置、部屋の形状など様々な要素により変化するため、要素を複合的に捉えて快適なインテリア空間について考察する必要があると考えられる。

本論文は、広島大学教育学部第四類人間生活系コース平成19年度卒論生の市丸大樹君の卒業論文をもとに加筆修正したものである。本調査にご協力いただいた広島大学の学生諸君に感謝の意を表する。

【参考文献】

- 1) 熊谷昌彦：10代後半学生のライフスタイルと空間要求に関する研究—寮生と通学生のライフスタイルと自室空間について—, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (九州), E-2, pp.223-224, (1998)
- 2) 竹原広実, 梁瀬度子：住宅居間の装備要因の色彩に関する調査研究, 日本家政学会誌, Vol.48, No.5, pp.427-436, (1997)
- 3) 加藤雪枝, 橋本令子, 雨宮 勇：室内空間に対する心理的及び生理的反応, 日本色彩学会誌, Vol.28, No.1, pp.16-25, (2004)
- 4) 鹿戸 明, 斎藤洋子：住宅のくつろぎ空間の色彩に関する調査研究—居間, 浴室, 自室の場合—, 日本建築学会大会学術講演梗概集 (関東), E-2, pp.249-250, (1997)
- 5) 竹原広実, 梁瀬度子：住宅居間における装備要因の色彩に関する実験的検討, 日本家政学会誌, Vol.50, No.6, pp.603-609, (1999)
- 6) 小木曾定彰, 乾 正雄：Semantic Differential (意味微分) 法による建物の色彩効果の測定, 日本建築学会論文報告集, No.67, pp.105-113, (1961)
- 7) 市丸大樹：学生アパート・マンションのインテリア計画における色彩に関する研究, 広島大学教育学部卒業論文, (2007)